

英文校閲の実際 第 15 話

——英語話者による修正が常に正しいとは限らない？！

今回の最初の文例 34 は、文例 27 から 33 までの 7 つの文例の要約なので、誤りは全てこれまで登場したものばかりです。復習と思って校閲前原文の誤りを見つけてください。

2 つ目の文例 35 は、米国人校閲者による原文の修正が、必ずしも適切とは思えない例です。校閲者による修正後の英文と、原文の使用頻度を、検索によって比較すると、修正後の英文のヒット数が原文よりもはるかに多いのが普通ですが、ときには例外もあります。第 13 話の文例 29 がその例外でしたが、今回の文例 35 も、そのような例外の 1 つです。

文例 34 : Acute Oral Gavage Escalating Dose Toxicity Study in Dogs (8 / 8)

Summary より

(校閲前原文) : ②③ In summary, when beagle dogs were given oral doses of ABC-123, vomiting, diarrhea and/or salivation and increases in ALT, AST, ALP, CK, LDH, total bilirubin and glucose were observed at 100 mg/kg and/or more. ②④ Almost all changes noted above were confirmed to be transient and returned to be normal levels 7 days after the dosing except for ALT and ALP which remained high at 14 days after the final dose. ②⑤ In addition intra-alveolar foam cell infiltrations were noted on histopathological examination which was conducted 14 days after the dosing of 1000 mg/kg.

(和文) : ②③要約すると、ビーグル犬に ABC-123 を経口投与したとき、嘔吐、下痢及び／あるいは垂涎と ALT、AST、ALP、CK、LDH、total bilirubin 及び glucose の増加が 100 mg/kg 及び／あるいはそれ以上で認められた。②④上記のほとんど全ての変化は一過性であることが確認され、投与 7 日後には正常なレベルに回復したが、ALT と ALP は例外で、最後の投与の 14 日後においてもなお高値であった。②⑤さらに、1000 mg/kg 投与の 14 日後に実施した病理組織学的検査では、肺胞内に泡沫細胞の浸潤が認められた。

(校閲後) : ②③ In summary, when beagle dogs were given oral doses of ABC-123, vomiting, diarrhea and/or salivation and increases in ALT, AST, ALP, CK, LDH, total bilirubin and glucose were observed at 100 mg/kg and/or above. ②④ Almost all changes noted above were confirmed to be transient and returned to normal levels 7 days after dosing except for ALT and ALP which remained high at 14 days after the final dose. ②⑤ In addition intra-alveolar foam cell infiltrations were noted on histopathological examinations which were conducted 14 days after dosing 1000 mg/kg.

(解説) ②③の原文 “and/or more.” が、“and/or above.” に修正されました。理由は、“and more.” が文末に来ると、“etc.” (et cetera)、すなわち、「など」あるいは「その他色々」の意味になるからです (例：“Contact your state social service agency for information about state benefit programs and more.” (州の給付プログラムなどの情報については、州の社会サービス機関にお問い合わせください))。すなわち、原文②③の “at 100 mg/kg and/or more” だと、「100 mg/kg など」という曖昧な意味になるので、“at 100 mg/kg and/or above” (100 mg/kg 及び／あるいはそ

れ以上) が正解です。

⑭の“returned to be normal levels” (正常なレベルに戻った) は、“normal” が“levels” を修飾する形容詞であり、“be” は余計です。更に、⑭の“7 days after the dosing” は、“dosing” の後に投与量などの限定がないので、限定の意味の“the” は不要です。

⑮の“examination” が、複数形に修正されました。理由は、検査対象動物が複数だからです。また、⑮の最後の“14 days after the dosing of 1000 mg/kg.” の“the” と“of” が削除されました。このような構文では、よく“the” と“of” が省かれること、しかし、原文も間違いではないことは第 12 話の文例 28 で説明しました。このことは、次の文例 35 の③と④で、校閲者が原文と同じ“After the dosing of” をそのまま 2 度も容認していることから明らかです。

文例 35 : Acute Oral Gavage Escalating Dose Toxicity Study in Monkeys (1 / 7)

Summary より

(校閲前原文) : ① The results are summarized in the Tabulated Summary and presented in Figure 1, Tables 1-3 and Appendix 1. ② No animals died during the observation period. ③ In the clinical signs, vomiting was noted in 1 female at about 6 hours after the dosing of 100 mg/kg. ④ After the dosing of 1000 mg/kg, this female showed vomiting more frequently within 1 hour after the dosing.

(和文) : ①結果は要約表に要約してあり、また図 1、表 1-3、及び Appendix 1 に示されている。②観察期間中に死亡した動物はなかった。③臨床症状としては、雌の 1 例に、100 mg/kg 投与の約 6 時間後に嘔吐が認められた。④1000 mg/kg 投与後には、この雌動物に投薬 1 時間以内に、より頻繁な嘔吐が見られた。

(校閲後) : ① The results are summarized in the Tabulated Summary and presented in Figure 1, Tables 1-3 and Appendix 1. ② No animals died during the observation period. ③ As clinical signs, vomiting was noted in 1 female at about 6 hours after the dosing of 100 mg/kg. ④ After the dosing of 1000 mg/kg, this female showed vomiting more frequently within 1 hour after dosing.

(解説) 文例 35~41 は、イヌを用いた予備漸増投与急性毒性試験(文例 27~34)と同様の試験を、動物をサルに変えて実施した試験の報告書の Summary を 7 つに分割したものです。

原文①と②は問題なし。③の原文“In the clinical signs,” (臨床症状では) は、“In” が“As” に置換され、“the” が削除されて、“As clinical signs,” (臨床症状としては) に修正されました。しかし、原文でも世間に通用することは、Google USA による以下の検索で明らかです :

- A. (SD による原文) “In the clinical signs,” のヒット数 : 11,900,000 件
- B. (校閲者の修正文) “As clinical signs,” のヒット数 : 228,000 件
- C. (A から the を削除) “In clinical signs,” のヒット数 : 3,010,000 件
- D. (B に the を追加) “As the clinical signs,” のヒット数 : 8,300,000 件

以上の検索結果から言えることは、上記 4 つのフレーズのうち、最も多く世間に通用しているフレーズは SD による原文 A であり、逆に最も通用していないフレーズは、校閲者による修正文 B であり、原文 A のヒット数は B の約 52 倍と、圧倒的に多かったのです。また、校閲者は原文の“the”

を省きましたが、Aから“the”を省いたCは、ヒット数が約4分の1に減少するので、原文の“the”はあったほうが良いことが分かりました。また、修正文Bに“the”を追加したDは、ヒット数が約36倍と、原文Aの約7割まで増えることから、修正文Bにも“the”は必要であることが分かりました。この“the”は、複数形の名詞の前に置く、総称の意味の“the”です。

以上から、③の原文に関する米国人校閲者による修正は、適切ではなかったと考えられます。なお、原文③に1回、④に2回の“the dosing”が含まれますが、最後の“dosing”の前の“the”だけが削除されました。理由は、この“dosing”にだけ、投与量による限定がないからです。

文例36 : Acute Oral Gavage Escalating Dose Toxicity Study in Monkeys (2/7)

Summary より

(校閲前原文) : ⑤ In addition, 1 male and 1 other female also showed severe vomiting at about 6 hours after the dosing of 1000 mg/kg, and for the female, severe salivation was accompanied. ⑥ No treatment-related changes were noted in body weight and food consumption.

(和文) : ⑤さらに、雄1例と他のもう1例の雌にも、1000 mg/kgの投薬の約6時間後に、激しい嘔吐が認められ、その雌動物には重度の垂涎も認められた。⑥体重及び摂餌量には投薬に関連する変化は認められなかった。

(校閲後) : ⑤ In addition, 1 male and another female also showed severe vomiting at about 6 hours after being dosed with 1000 mg/kg and, for the female, there was also severe salivation. ⑥No treatment-related changes were noted for body weight or food consumption.

(解説) 原文⑤の“1 male and 1 other female”の“1 other”が“another”に修正されました。“another”は、語源的に“an+other”なので、SDは“another”を使うべきでした。

また、⑤の“after the dosing of 1000 mg/kg”が、“after being dosed with 1000 mg/kg”に修正されました。理由は、⑤の文章の主語がサルで、“dosing”(投薬)はヒトの行為なので、校閲者は、ヒトが主体の表現である“after dosing”を、サルが主体の表現、“after being dosed”(投薬を受けた後)に置き換えることで、サルが主体の文章⑤の首尾一貫性を維持しました。ちなみに、第12話の文例28の、イヌが主語の同様の文章では、校閲者は“after receiving 1000 mg/kg”に修正しており、この表現も使えます。

更に、⑤の後半の“severe salivation was accompanied.”が、“there was also severe salivation.”に修正されました。SDは「(この雌に) 激しい垂涎が伴っていた」と言いたかったものと思われませんが、原文は「垂涎」を主語にし、他動詞“accompany”の受動態を述語にしているので、激しい垂涎が伴われていた、の意味になり、意味不明です。この誤りは、SDが無理に他動詞“accompany”を使おうとしたために生じたものです。米国人校閲者は“there was also severe salivation.”(激しい垂涎があった)と、易しい表現に修正しました。ちなみに、第12話の文例28の、イヌに関する同様の文章では、校閲者は“salivation was seen”(垂涎が見られた)と、更に易しい表現に修正していました。これらの例は、日本人が書く英文よりも、英語話者が書く英文のほうがはるかに易しいことを示しています。